産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例（R2年度：計画作成主体：指宿市農業再生協議会）（鹿児島県）

取組の概要

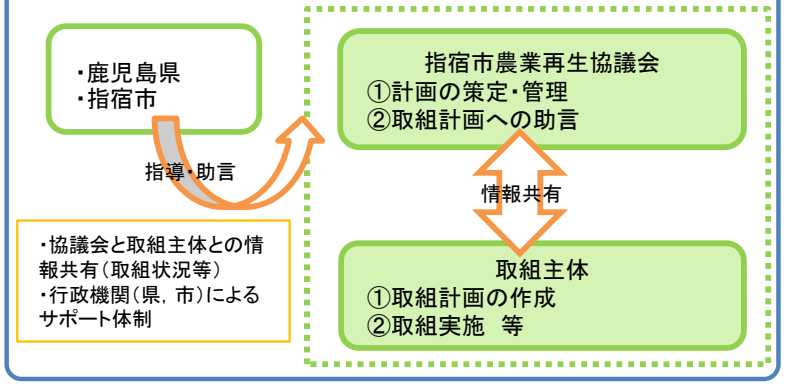
対象品目　　：野菜（キャベツ）
主な取組主体：㈱大吉農園
成果目標　　：輸出向け出荷量の10%以上の増加
　　基準（令和元年度）87.7ｔ
　　目標（令和４年度）189ｔ
導入施設　　：集出荷貯蔵施設（建屋、予冷施設）

ポイント

【産地の課題及び取組方向】
　キャベツは，指宿市の葉茎菜類の中でも作付面積は上位を占めており，担い手農家を中心に大規模経営や専作農家が増加傾向にあるが，そのほとんどを国内出荷しているのが現状である。
　集出荷貯蔵施設の整備により，輸出取引先の需要に対応した栽培面積の拡大と計画的な出荷体制を確立し，国内取引先への安定出荷に取り組むとともに，輸出を拡大し，農業者の所得向上と経営安定を目指す。

【産地の体質強化に向けた方策】
　輸出を含めたキャベツ需要に応じた計画出荷体制を整えるため，集出荷貯蔵施設を整備し，輸出量の拡大及び契約取引の増加を図る。

推進体制

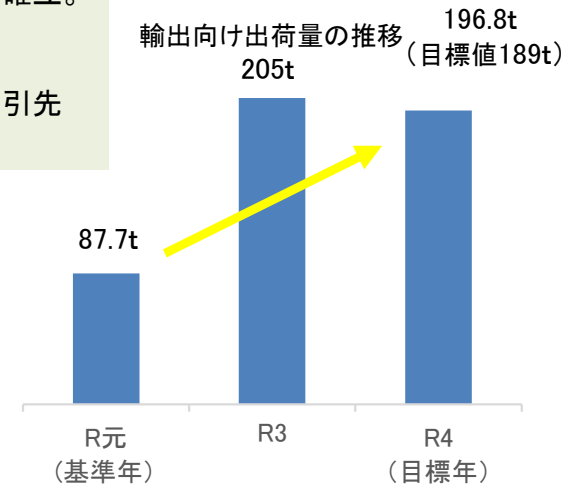


地域における独自の取組

○ GAP制度の取得推進
○ 輸出先のニーズに合わせて生産方法を工夫
○ 青果加工品・冷凍野菜等による高付加価値化の推進

取組成果

【事業実施による直接効果】
○集出荷体制の構築により作付面積が拡大。
　（Ｒ元：２５ha → Ｒ４：４０ha）
○予冷施設の整備により計画的な出荷体制を確立。

【事業実施による間接効果】
○高品質化により需要が高まり，輸出契約取引先が増加。（Ｒ元：１社 → Ｒ４：３社）

輸出向け出荷量が増加
124．4%の増